

表1. 結果報告様式

A 本研究のスコアが極値の方			
血清クレアチニン	尿蛋白	結果報告	
A1	正常	-	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられます。尿蛋白(血尿)は認められませんでしたので、今後とも定期的な経過の観察をお勧めします。
A2	正常 or 高値	+	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられます。しかし、尿蛋白が陽性ですので、なんらかの腎疾患の疑いがあります。腎臓内科専門外来への受診および検査をお勧めします。
A3	高値	+/- or -	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられます。しかし、血中クレアチニン値が高値ですので、なんらかの腎疾患の疑いがあります。腎臓内科専門外来への受診および検査をお勧めします。
B 本研究のスコアが両値の方			
血清クレアチニン	尿蛋白	結果報告	
B	正常 or 高値	+ or +/- or -	本研究結果より、igA腎症の可能性が高いと考えられます。今後なるべく早期に腎臓内科専門外来への受診および検査をお勧めします。
C 本研究のスコアが中間値の方			
血清クレアチニン	尿蛋白	結果報告	
C1	正常	-	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられますが、複発者よりもやや高値を示しています。次年度の経過でも経過をみることをお勧めいたします。本病候を継続していただき、昨年と同じ経過観察を継続してください。
C2	正常 or 高値	+	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられます。しかし、尿蛋白が陽性ですので、なんらかの腎疾患の疑いがあります。腎臓内科専門外来への受診および検査をお勧めします。
C3	高値	+/- or -	現時点では、igA腎症の可能性は低いと考えられますが、複発者よりもやや高値を示しています。また、血中クレアチニン値が高値ですので、なんらかの腎疾患の疑いがあります。腎臓内科専門外来への受診および検査をお勧めします。

表2A. 各コホートのB判定率

	総数	年齢	男女比(%)		尿蛋白陽性者(%)	血清Cr増加者(%)	診断スコア判定		
			男性	女性			A判定	B判定	C判定
宮崎県	1142	40.0	28.3%	71.7%	10.2%	4.5%	42.4%	10.7%	46.9%
東京都	289	41.1	32.9%	67.1%	6.6%	9.0%	36.0%	17.6%	46.4%
沖縄県	1131	42.0	26.3%	73.7%	5.5%	7.3%	57.0%	13.0%	30.0%
山形県	185	40.9	24.3%	75.7%	9.7%	15.7%	54.6%	11.9%	33.5%
計	2747								

(平成26年12月末までの解析結果)

表2B. 尿潜血陽性者全対象におけるB判定率の性差(%)

	男性(%) vs 女性(%)	
宮崎県	8.9	vs 11.4
東京都	25.3	vs 13.9
沖縄県	19.2	vs 10.8
山形県	20.0	vs 9.3

} 男性のB判定率が女性の約2倍

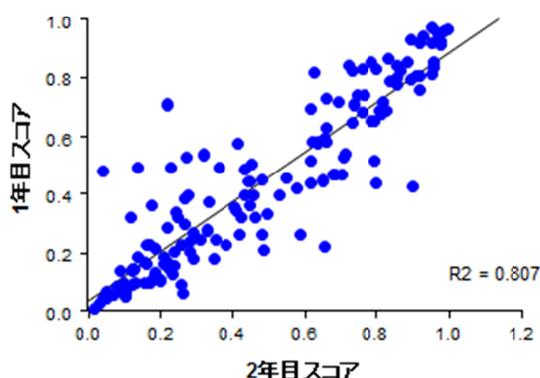


図1. 1年目スコアと2年目スコアの相関解析